■佐々木東洋　　医家。{杏雲堂病院}創立者。
ささきとうよう
蛮社の獄・・1839＝　　江戸本所四ツ目で，佐々木震沢の長男に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 6歳：

・・・・・・1848＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝14歳：
開国開港・・1854＝15歳：この年，祖父佐々木東碩が死去。

蕃書調所・・1857＝18歳：_佐藤泰然・舜海の佐倉順天堂塾に入学。
五ヶ国条約・1858＝19歳：上総・下総で巡回種痘をする。

桜田門外変・1860＝21歳：
遣欧使節・・1861＝22歳：_順天堂を退学し，佐藤尚中・門人6人と長崎遊学に出発，ポンペからオランダ医学を学ぶ。
生麦事件・・1862＝23歳：長崎から江戸に戻り，父の代診を勤める。初婚は不縁。海軍軍医採用試験に応じ，西洋医学所繃帯教授助手となる。妻富士子(田口氏)を娶る。
8月18日政変 1863＝24歳：肺尖カタルに罹患。_深川北松代町で開業。家督を相続する。
薩摩藩士密航1865＝26歳：中田政吉を養子とする(佐々木政吉)。
薩長同盟・・1866＝27歳：_本所相生町に転居開業。松本良順の推挙で軍艦幡龍軍医となり，勝海舟と会談。

明治維新・・1868＝29歳：英学修得を開始。妻が死去したため，三宅艮斎長女ミネ子と再婚し，三宅宅に転居。
戊辰戦争終・1869＝30歳：_北海道宗谷詰め二等醫士採用を辞退し，亀沢町にて開業するが，その後自宅診療を止め，一橋家医師を辞退し，大学東校に大得業生として出仕。
廃藩置県・・1871＝32歳：戊辰戦争に際し白石亘理家に滞在。*中助教から大助教に昇進し，ホフマン内科医長を兼る。「動脈解剖扁」「解体生理図説」(英文)を翻訳。
学問のすすめ1872＝33歳：「診法要略」(打診聴診法)を出版。
明治6年政変 1873＝34歳：_佐藤尚中とともに大学を辞職し，博愛舎に入るが解散となり，自宅開業後，東京府立病院副院長に就任。
佐賀の乱・・1874＝35歳：_少助教に昇進するが，アッシミード医師との確執から辞職。長与専斎の勧めで，大学東校病院長に就任。
初の民間工場1875＝36歳：駿河台に転居開業。佐藤尚中に依頼され診療。
三つの内乱・1876＝37歳：_東京医学校を辞職，大学病院長も辞任し，独逸医学書翻訳を開始。
西南戦争・・1877＝38歳：_西南戦争が勃発すると，大阪臨時陸軍病院で診療。戦後，独文の「内科提網」1･2を出版。
大久保暗殺・1878＝39歳：勲四等旭日小綬章。_「内科提網」3～6出版。設立された政府脚気病院で洋方を担当，漢方医と"脚気相撲"。
沖縄県編入・1879＝40歳：脚気病院が駒込に移転され，
・・・・・・1880＝41歳：閉鎖されると，私費で脚気病院設立したが解消し，
明治14年政変1881＝42歳：*{杏雲堂医院}を創立。
新体詩抄・・1882＝43歳：東京地方衛生会員に推挙される。仏教を志し，芝青松寺北野元峰師に付く。
秩父事件・・1884＝45歳：
内閣発足・・1885＝46歳：石黒忠悳・長与専斎・池田謙斎とともに{乙酉会}を興す。
帝国大学始・1886＝47歳：*東京府医師会設立され，二代目会長に就任。内務省中央衛生会委員就任。

初の対等条約1888＝49歳：「信仏論」を刊行。
帝国憲法発布1889＝50歳：隆興を養嗣子とし引き取る。
帝国議会始・1890＝51歳：従五位に叙せらる。
大津事件・・1891＝52歳：東京府医師会4代目会長に再選。

郡司千島探検1893＝54歳：{杏雲堂医院}拡張工事を開始，
日清戦争始・1894＝55歳：竣工。
日清戦争終・1895＝56歳：_東京府医師会会長を辞任。
白馬会・・・1896＝57歳：*引退し，政吉が杏雲堂医院長に就任。

Bushidou・・1899＝60歳：熱海に隠棲し，無住と号し，別荘を無住荘と命名。

教科書疑獄・1902＝63歳：

日露戦争始・1904＝65歳：杏雲堂本院に甲辰会を設置。
日露戦争終・1905＝66歳：

大逆事件判決1911＝72歳：
明治天皇没・1912＝73歳：急性肺炎に罹り，政吉に熱海へ往診に来てもらい，大森山王台別邸へ移る。

21ヶ条要求・1915＝76歳：再び，急性肺炎を罹患。

ロシア革命・1917＝78歳：「佐々木杏雲堂略伝記(東洋手記)」を執筆し，
本格政党内閣1918＝79歳：金婚式・卒寿祝宴してまもなく，_没した。
正五位・勲三等瑞宝章追贈。

インターネットWikipedia，